

いつく うつく

# 厳し美しいの里



## だより



発行者：厳し美しいの里協議会  
(会長 小岩次男)

(事務局)

〒021-0101

一関市厳美町字沖野々116-6

一関市厳美市民センター内 鈴木

TEL29-2205 FAX29-2251

genbic.jp



令和5年9月1日発行 第14号

## 第2回新潟県中越メモリアル回廊視察報告

～岩手・宮城内陸地震を後世へ語り継ぐ～



資料の展示方法等、参考になりました



地元の語り部さんによるガイド

8月18～19日、地域の方々と、新潟県長岡市にある中越メモリアル回廊「やまこし復興交流館おらたる」と「木籠集落」の視察研修を行いました。

視察の目的としては、一関工業高等学校さんによる震災資料展示室がある山谷分館を、岩手宮城内陸地震のメモリアル施設とし、震災、防災学習を行える場とするためです。

今回、中越地震のアーカイブ施設である「おらたる」と「木籠集落」を視察したことで、資料の展示方法や震災の教訓の伝え方など、参考になる部分が多くあり、有意義な視察研修となりました。視察で得た知識を参考に、皆様から寄せられた震災当時の写真や記憶シートを活用し、地域の皆様と力を合わせ、厳美ならではのメモリアル施設の開設を目指します。

### やまこし こども 【山古志 木籠集落】

平成16年10月23日に発生した中越地震の際、地滑りが起き、集落を流れていた芋川が堰き止められてダムとなり、全24世帯中14世帯が水没、10世帯が半壊した「木籠集落」。

下流の地域への被害を食い止めるため、水没した家々を残したまま、堰止湖を自然堤防として保全。仮設住宅での生活を余儀なくされたが、集落に戻ることを諦めず、離村してから3年後、木籠集落に集団移転を果たした。

現在では、水没した家屋を保存し、木籠メモリアルパークとして、中越大震災の爪痕を残す大切なメモリアルポイントとなっている。集団移転をした集落の隣接地には、地域で運営する直売所と資料館を併設した「郷見庵」がある。



2階部分まで土砂に埋もれた家



地元の方手作りの紙芝居を披露

## ～9月9日（土）の巖美市民センター指定管理移行記念

### 【熱気球係留体験搭乗会及び講演会】について～

◎熱気球係留体験搭乗会：巖美市民センター山谷分館グラウンドにて、朝6時30分受付開始。  
※一関・平泉バルーンフェスティバル実行委員会さんより、朝6時から開始する熱気球の準備の様子も是非ご覧いただきたいとのことです。熱気球が飛ぶ姿はたびたび見かけますが、準備段階を見学できる機会は少ないと思いますので、早起きしてご覧いただければと思います。また、天候にもよりますが、準備ができ次第、飛行を開始するとのことなので、搭乗を希望されている方はお早めにお越しください。（荒天時は山谷分館体育館にてミニ熱気球制作ワークショップの開催となります。こちらはどなたでもご参加いただけます。）熱気球搭乗、ワークショップともに無料でご参加いただけます。

◎開会式：巖美市民センター ホールにて9時30分から開催。

◎アトラクション：巖美中学生有志の皆さんによる鶏舞披露。巖美市民センター ホールにて、10時から開催。※地域の宝でもある、巖中生の勇壮な舞をご覧ください。

◎講演会：なかだえり氏「絵本『奇跡の一本松～大津波をのりこえて～』の朗読と、水彩画で見る郷土の風景」巖美市民センター 和室にて、10時40分から開催。※一関市出身イラストレーターのなかださんの視点で描かれた水彩画を通して、震災伝承、地域課題等についてお話しいただきます。迫力ある朗読と優しいタッチの水彩画をお楽しみください。

熱気球係留体験搭乗会の応募をお待ちしております。定員に満たない場合は当日申込みも可とします。詳細につきましては、指定管理移行記念式典のチラシをご覧ください。か、巖美市民センターまでお問合せください。（巖美市民センター29-2205 担当：鈴木）



舞川市民センターさんによる搭乗会体験会の様子

巖美中大運動会での鶏舞披露の様子



講師なかだえりさんと  
著書「奇跡の一本松～大津波をのりこえて～」

